価値創造の歩み

時代背景

1933-1936	1937-1970	1971-1990	1991-2010	2011-2025
娯楽文化の拡大に伴い、映写機用電源の安定化ニーズが高まり、電源技術への期待が高まる	復興・高度経済成長を背景に、産業設備の大型化・自動化が進み、高信頼電源への需要が拡大	オイルショックを契機とした省エネルギー化の進展により、パワー半導体と電力制御技術への需要が拡大	環境意識の高まりとグローバル化の進展を背景に、省エネルギー化への要求が一層高まる	デジタル化や再生可能エネルギーの普及、AI活用や脱炭素化の進展により、電力需要が高度化・多様化

1933-1936 創業期

整流・安定化技術

電圧変動を抑える整流・安定化技術を確立。「止まらないこと」を最優先とする信頼設計思想を形成



チョーキングコイル・オートトランス



映写用タンガー整流器

1937-1970 技術基盤の確立



全拡散型サイリスタ

高電圧・高電流技術

溶接・めっき・電解向け大電流制御技術、過酷環境でも使用可能な耐久設計、量産と品質を両立する製造技術



インバーター無停電電源装置



電力調整器



直流アーク溶接機

1971-1990 拠点拡大、パワー半導体の開発特化



絶縁型トライアック

パワー半導体技術

サイリスタなどパワー半導体の内製化、デバイスと電源回路の一体設計、長寿命・高効率設計思想



サイリスタモジュール



めっき用整流器

1991-2010 さらなるグローバル化へ



電池用充放電装置



ダイオードモジュール

最適設計・用途展開力

小型化・高効率設計、用途別カスタマイズ設計力、国際品質基準に対応した製造体制



太陽光発電パワーコンディショナー

2011-2025 新たな時代に向かって



SiCパワーモジュール



燃料電池対応パワーコンディショナー



大容量パワーコンディショナー評価システム

エネルギー変換・制御技術

パワー半導体×電源×制御の統合技術、蓄電池・分散電源制御、用途理解に基づくシステム設計力

現在

現在への展開

映写機用電源で培った高信頼・高安定化技術は、産業用電源や無停電電源装置（UPS）へ発展し、社会の安定稼働を支えている

産業用整流器で培った高電圧・高電流技術は、表面処理用電源や充放電装置へ受け継がれ、先端半導体や蓄電池の製造を支えている

省エネルギー化ニーズの中で磨いたパワー半導体技術は、SiCデバイスや電力変換機器へ発展し、電力利用の高効率化を実現している

グローバル市場で培った最適設計力は、産業用電源や試験・評価装置など幅広い用途で顧客の課題解決に貢献している

エネルギー変換・制御技術は、再生可能エネルギー設備や蓄電システム向け電源へ展開され、脱炭素社会と電力インフラの高度化を支えている